

報道各位

第4回 日本放送文化大賞 ラジオ部門 TOKYO FM「苑子ちゃんの手紙」が中央審査候補作品に

社団法人日本民間放送連盟が実施する「日本放送文化大賞」の東京地区審査会が本日(8月1日)に行われ、TOKYO FMの「苑子ちゃんの手紙」が、ラジオ部門・エントリー8作品の中から、中央審査候補作品として選出されました。

「日本放送文化大賞」は、日本民間放送連盟の会員各社において質の高い番組がより多く制作・放送されることを促す目的で、視聴者・聴取者の期待に応えるとともに、放送文化の向上に寄与したと評価される番組を顕彰する目的で2005年に制定されました。

第4回日本放送文化大賞グランプリ、準グランプリは、9月19日に実施されるラジオ部門中央審査で選出され、10月28日の第56回民間放送全国大会にて発表されます。

<中央審査候補作品紹介>

- タイトル: 苑子ちゃんの手紙
- 放送日時: 2008年5月29日(木) 21:00~21:55
- 出演者: 松井苑子、松井ちさ子、柴田幸子(TOKYO FM)
- プロデューサー: 延江浩(TOKYO FM)
- ディレクター: 武藤智子(フリー)
- 作品内容

千葉県美浜区の中学3年生、松井苑子ちゃんはウィリアムズ症候群という障害を持っている(7番染色体の一部の欠乏による遺伝子疾患。心臓や腎臓に先天的な障害があったり、発育の遅れ、学習障害、数の計算や空間、形の認識も不得意)。

靴の紐を結んだり漢字を書いたりすることが苦手だが、一般の生徒と共に授業を受け、給食を食べ、健常児と同じような生活をしていく。

「おはよう」。

苑子ちゃんは毎朝全校生徒に丁寧にあいさつをする。そして、毎日級友や先生に何十通もの手紙を送る。ウィリアムズ症候群は、人なつっこい社交性がその特徴だ。そしてもうひとつ、音感やリズム感に優れた才能をしめすという特徴を持っている。そこに着目した母親は娘の将来を音楽に託そうとする。彼女の日々をマイクが追う。そしてお母さんの想い。

15歳の誕生日を迎えるにあたって「苑子ライブ」を開くために、ドラム、フルート、歌、タップ、音楽の特訓の始める苑子ちゃん。音楽を通して成長し、昨日までできなかったことを克服し、一步一步成長していく力強い姿と、その中にある、健常者が忘れがちな、ピュアな心の交流を描く。